

葉たまねぎ

農薬取締法上「葉たまねぎ」と「たまねぎ」は別の作物。

「葉たまねぎ」は「たまねぎの比較的若い段階（鱗茎が太り始める頃）の葉及び鱗茎」を収穫するもの。

————— 発病・加害時期
 ===== 発病・加害最盛期

作型・病害虫名	月												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
夏まき（超極早生）	■								●		▲		■
秋まき（中晩生）		■							●		▲		
べと病		=====											
灰色かび病		=====											
灰色腐敗病			=====										
白色疫病		=====											
ネギアザミウマ				=====									
シロイチモジヨトウ									=====				

べと病

留意事項

- 1 QoI剤(11)は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 排水を良くする。
- 2 苗床の被害株を除去する。
- 3 越年り病株は早めに除去する。
- 4 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 5 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ランマンフロアブル 21【2000倍 3日/4回】
- 6 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・アミスター20フロアブル 11【2000倍 3日/3回】

灰色かび病

留意事項

- 1 病原菌の発育適温は気温23℃前後である。

防除方法

- 1 排水を良くする。
- 2 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 3 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [オーソサイド水和剤80](#) M4 【600倍 7日／5回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ロブラール水和剤](#) 2 【1000倍 14日／2回】

灰色腐敗病

留意事項

- 1 苗床末期と春期の多湿時に発生が多い。
- 2 予防的散布が大切である。
- 3 QoI剤(1 1)は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

防除方法

- 1 窒素質肥料の過用を避け、排水を良くする。
- 2 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 収穫適期を見定め、晴天が続いた後に収穫する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ロブラール水和剤](#) 2 【1000倍 14日／2回】
 - ・ [アミスター20フロアブル](#) 1 1 【2000倍 3日／3回】

白色疫病

留意事項

- 1 1～2月頃温暖で3～4月に冷涼多雨の場合に多発する。

防除方法

- 1 窒素質肥料の過用を避け、排水を良くする。
- 2 被害株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。
- 3 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
 - ・ [オーソサイド水和剤80](#) M4 【600倍 7日／5回】

ネギアザミウマ

留意事項

- 1 高温少雨時に多発する。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ [ディアナSC](#) 5 【アザミウマ類 2500～5000倍 前日／2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

シロイチモジヨトウ

留意事項

- 1 発生初期の防除を徹底する。
- 2 葉の内部へ潜り込む前に防除を行う。

防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
 - ・ BT剤 11A (Ⅸ野菜類の病害虫 3野菜類 参照)

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。